

絹織物をガラス、アクリル、シート加工と

融合した空間装飾材「絹ガラス」事業

株式会社伊と幸

代表取締役副社長

北川 きたがわ

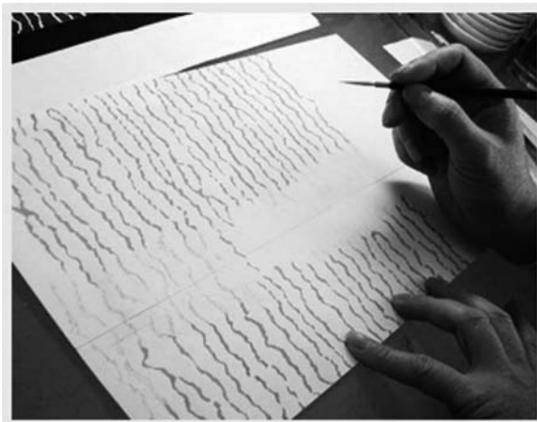
幸 さち さん



北川 幸さん

絹織物メーカーとして創業

株式会社伊と幸は、昭和6（1931）年の創業以来、絹織物の専門メーカーとして社内図案家によるオリジナルデザインを地紋様に織り込み、精練、検品に至るまで一貫して独自に拘わる、和装業界でも名高い絹ブランドを築き上げてきました。日本で初めて繭から白生地までの統一商標を取得した「松岡姫」や、日本古来の原蚕種を改良復元した繭から取れる「又昔」など、最高級ブランドシルクを発表してきており、その品質はもちろん、日本が誇るべき文化である蚕糸産業への貢献も高く評価されています。こういった堅調な姿勢から生まれる絹織物は、京都市の提携姉妹都市への寄贈品や、本物を追及する映画の衣装として扱われるなど、和装業界を牽引するものづくりとして表れ、その精神は副社長の北川幸さんにも引き継がれてきています。



図案はすべて社内専属図案家によるオリジナル

「絹ガラス」の誕生

北川さんは、創業者である元日本画家の祖父の代から、美しい図案と絹の魅力を和装生地として伝えてきた伊と幸ブランドを、現代のライフスタイルに合った形で展開できないかと、数年前から異業種連携に取り組み始めました。先細りが否めない和装業界ですが、その中で培われた技術は今も脈々と息づき、将来に受け継がれるべきもの。それは着物としての美しさだけでなく、あらゆる場面で評価される可能性があるかと確信し、ガラス加工会社との連携で「絹ガラス」を開発するに至ります。これは、ガラスとガラスの間に、薄いオーガンジーをベースに繊細な刺繍を施した生地や、縞や紗など糸目の透ける



「絹ガラス」に絹織物を間に挟んだ

伝統製品の活用

素材など、透明感のある絹織物を挟み込んだ新しいガラスです。表面をこすることで模様をつける擦りガラスとは異なり、光の加減により絹糸の一本一本が美しい影となり、絹でしか表現できない繊細な図案をそのままインテリア空間に浮かび上がらせています。

この新しいガラスを完成させた北川さんは、内装材としての可能性を感じ、平成24（2012）年に「絹ガラス」として商標登録、京都市知恵産業創造支援事業の認定を受け、テストマーケティングとして平成25（2013）年3月に JAPAN SHOP へ出展しました。そこで商業施設や生活空間への展開に強い手ごたえとニーズを確信し、本格的に事業を展開するための準備支援として応援ファンドに申請します。

絹ガラスの技術は、ガラスだけでなく様々な内装材に応用が可能でした。より加工しやすくするためアクリル材に挟んだり、グラスファイバー



内装の施行例

の不織布に絹織物を重ねて絹の感触がそのまま活かせる汎用性の高いシートにしたり、その他、試作を重ねながら床材や壁材としても展開しています。金銀のラメを織り込んだり、染色も可能。色や図案も要望に応じて特注で提案できる点も強みになり、量産よりも別注対応が主になることがわかりました。サンプルを作り販路を広げる中で、ホテルのオリジナルクロスやマンションのエントランスなどの大きな物件も頂けるように。「異業種の方に出会うことで絹織物の新しい魅力に逆に気付かせて頂きました。お互いに情報交換、技術連携し、新しいニーズに合った形に変わり、求められていくことが楽しい」と、北川さん。伊と幸が提供するの、これまで自信をもって作り上げてきた独自ブランドの絹織物。異業



絹ガラスショールーム（京都）

種の方との出会いが互いの強みを出し合った商品となり、スピード感を持って絹織物に新しい可能性を吹き込むことができました。その結果、和装業界とは違うまた新たな販路に乗り、様々なシーンで絹織物の美しさに触れて頂けるようになったのです。

伝統と最先端技術の融合

北川さんは、絹ガラスを使った立礼式のお手前ができるティーテーブル「Silk Art Tea Table 絹ガラス製『SAT（さつと）テーブル』」を商品化し、海外でもご利用いただける家具としても提案しています。テーブル部分のガラスは、鋳物などの茶道具も安心して置いて頂ける強度を確保するため、スマートフォンの画面などに活用されているケミカル強化ガラスを使用。フレームデザインは、京都商工会議所からのご紹介で、平成23（2011）年の東京インターナショナルギフトショーで出品した絹襦紗を共に手がけた、空間プロデューサーの山下順三氏に依頼。茶道用のみならず、コンパクトに収納可能な普段使いのティーサーブテーブルとして汎用性も高く、2014年の京都デザイン賞にも入選した自信作です。その洗練されたデザインと機能性は、欧米のインテリアにも違和感なく溶け込み、ルーブル美術館別館のカルーゼル・デュ・ルーブル（フランス・パリ）でのお披露目で高評価を頂いたり、ローマ法王所縁のロムアルド・デル・ピアンコ財団（イタリア・フィレンツェ）へ寄贈されたり、モダン・ジャパン・スタイルなインテリア家具として、今まさに日本の文化を発信中です。



ロムアルド・デル・ピアンコ財団へ寄贈されたSATテーブル

「伝統と最先端技術の融合に興味があるんです」と、北川さんはこれからも異業種の方々との連携で様々な展開をしていきたいと言います。しかし、原点はやはり着物。世界に誇る日本の絹織物技術を存続させつつ、京都室町の和装業界を再起発展させる・・・そのため、自社だけでなく連携先も一緒に良い方向に進むことを大切にしたいと言います。同業者同士、あるいはご近所付き合い一つをとっても、横のつながりを丁寧につなげることで都市の文化を形成してきた京都。北川さんの事業スタイルは、まさにそんな京都人としての精神を受け継ぎ、相手様との関係性から新しいものづくりに繋げているように見えます。

事業概要

株式会社 伊と幸

<http://www.kimono-itoko.co.jp/>

代表：代表取締役 伊藤 公一

業種：絹織物製造卸 及び 不動産賃貸業

創業：昭和6（1931）年 設立：昭和25（1950）年

住所：〒604-8176 京都市中京区御池通室町東入竜池町448-2

TEL：075-254-5884 FAX：075-256-2818